

## 令和5年度 第3回江別市未来型政策検討会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和6年2月19日（月）15時30分から16時30分まで

場 所：江別市役所第二別館 1階会議室

出席委員：《会場参加：5名》

明神知委員長、龍田昌樹委員、布施望委員、  
佐藤誠一委員、川口圭太委員

《オンライン参加：5名》

北川裕治委員、渡邊慎哉委員、佐藤和夫委員、  
鈴木秀明委員、干野里佳委員

（計10名）

欠席者：佐藤貢委員、樋口裕晃委員、浅井貴也委員（計3名）

事務局：白崎企画政策部長、伊藤次長、中島デジタル政策室長  
天明屋参事、池田参事、坂口主査、鈴木主査、丸山主査、初瀬尾主任  
（計9名）

傍聴者：なし

### 会議概要

#### 1. 開会

#### 2. 議事

（1）江別市DX推進方針における具体の取組事項の進捗状況について

～事務局説明～

##### ●明神委員長

スマート農業の推進検討事業はどこまで進んでいるのか。

##### ●事務局

スマート農業推進検討事業における情報通信技術に関するニーズ等調査、ワークショップ、それに係る試行調査は、令和6年度に実施する予定である。

##### ●布施委員

対象のエリアや農業者は決まっているのか。

##### ●事務局

現時点では未定である。

●佐藤（誠）委員

スマホ教室で江別市公式LINEアカウントの使い方等の講座は行っているのか。

●事務局

今月開催予定の集合型スマホ教室で、江別市公式LINEアカウントに関する講座を実施する予定である。

●鈴木委員（オンライン）

SNSについて、資料に各SNSの使用目的や特徴等の記載があるが、もう一段階具体的に教えていただきたい。

例えば、SNSの運用は定期的な投稿が必要になると思うが、自治体によっては外部の専門企業に委託するなど、お金をそれなりにかけて運用しているケースもあると思う。費用対効果における目標などはあるのか。

また、それぞれのSNSの性格というのはあると思うが、登録者数をどの程度までに増やしたいといった目標についてもお聞きしたい。

●事務局

各SNSを通して、多くの方に江別市の発信する情報に触れていただいている。

画像や動画の発信など、各コンテンツごとに適した情報発信のやり方があるので、各課ごとに分かりやすい表現に気をつけて投稿しており、利用者のニーズに応じた情報発信ができるよう、工夫して運用している。

## （2）デジタル田園都市国家構想交付金（TYPE1）の申請事業について

### ～事務局説明～

●明神委員長

これらの事業を選定する上で、ユーザーから、要望やニーズについてヒアリングは実施しているのか。例えば、学校教育DX事業での教員の声などは聞きとっているのか。システムはせっかく作っても使ってもらえないということも多いので質問させていただきたい。

●事務局

事業の選定については、DX推進方針を策定する段階において、各部局の課題を聞き取るところからスタートしており、市民の方に対して効果的であるものを募集したところである。その後、庁内での予算査定も含め、総合的に判断された5事業が選定されている。

また、要望やニーズは担当課においてそれぞれ確認しており、学校教育DX推進事業においては教育委員会で先生方へ実施している定期的なアンケートや校長会、教頭会等で意見を伺っていると聞いている。

●渡邊委員（オンライン）

これらの事業は、この内容で申請した事後報告という理解で良いか。

●事務局

はい。この内容で申請した。

●渡邊委員（オンライン）

学校教育のDX推進事業について、小学校・中学校を中心に考えているようであるが、大学や生涯学習は対象としなかったのか。対象としなかったのであれば、してほしかった。

●事務局

G I G Aスクール構想で児童生徒1人に1台の端末が現在配布されており、それを活用して何ができるか、という考えで教育部から申請したものであるため、小学校・中学校が対象となっている。

●布施委員

5つの事業が申請されているが、採択される場合は5つの事業全てが採択となるのか、その中からいくつか採択されるのか。

●事務局

交付金の申請件数が多いと聞いており、国の採択基準にもよるため、5つの事業全てが採択される場合もあれば、5つの事業の内、いくつかしか採択されない場合もある。

●川口委員

採択の基準は何か示されているのか。

●事務局

国から採点表が公表されているので、それに基づき申請書を作成した。

●鈴木委員（オンライン）

これらの製品やソリューションは、事業が採択された後に選定するということか。

●事務局

事業採択後にシステムを選定する流れになる。

### 3. その他

●佐藤（誠）委員

私たちの自治会は、LINEやメールを利用してデジタル回覧を実施している。710世帯の中で10件程度は紙ベースで回覧したいという方がいるが、それ以外にはデータで情報を共有しており、今話題になっている自治会役員のなり手がいないといった問題の解決策にもなりうる。

デジタル回覧について、他の自治会など様々なところから問い合わせを受けるが、課題が多く、実施することが難しいといったことが多い。これらの相談を市民生活課で受けているのだが、デジタル政策室にも相談していいのかをお聞きしたい。

また、市から送られてくる資料は紙で送られてくるものもあるため、スキャンして

デジタル回覧している。市から送られてくる全ての情報が一元管理され、全てデータで送られてくるのであれば、自治会や市の負担も少なくなると思う。

#### ●事務局

1点目の相談窓口については、市民生活課とデジタル政策室で連携を図るので相談いただいて問題ない。また、デジタル回覧については、全てがデジタル回覧になることは難しいため、紙との併用をしながら進めていくことになろうと思う。

2点目のデータの件については、関係する課等があるため、どのようなやり方がいいのか、今後の参考とさせていただきたい。

#### ●明神委員長

市から発出する情報について、全体的なコーディネーターのような方はいるのか。

例えば、SNSは誹謗中傷など情報の発信によっては炎上することもあり、企業によってはガイドラインを作成し情報発信の仕方を定めている場合もある。

それぞれが担当課で情報発信をやられているということだが、バラバラでやっているということではいけないかと思う。全体を通して、定期的に情報更新をしているかの把握や、全体の整合性を管理する役割というのは設けていないのか。

#### ●事務局

広報広聴課では、Facebookなどを利用する場合のガイドラインを作成している。

それぞれの課でアカウントを持っている場合もあるため、情報伝達の方法等をガイドラインで定めている。

#### ●明神委員長

SNSによって、男女や年代などそれぞれ得意とする媒体があると思うが、こういう情報はここに載せようといった交通整理も必要であり、本当に情報が行き届いているかを確認して、先ほどの回覧をこっちでやろうといったことも重要と思う。

全体を見る必要性があると思うので、検討をお願いしたい。

#### ●渡邊委員（オンライン）

オンライン側の音声について、議長の声はすごくはっきり聞こえるが、事務局の声が聞き取りにくかった。

また、江別市未来型政策検討委員会の存在が報告を聞くだけになってしまっているため、委員会の中でももう少し検討する余地があれば良いと思う。

#### ●事務局

初めてのハイブリット開催のため、声が聞き取りにくいという点については、今後の改善に向け取り組んでいきたい。

また、今回の議題では報告が多かったが、今後は積極的に議論が生まれるような会議の内容についても検討していきたい。

#### ●干野委員（オンライン）

議題1のスマホ教室は、今後も継続する予定はあるのか。

出張スマホ教室は、市役所正面玄関前と市内の3公民館で実施しているとのことだが、JRより南側の地区や豊幌、文京台などでも地区センターを利用して開催しても

いいのではないかと。

●事務局

出張スマホ教室は、令和6年度も開催場所や回数に変更はあるかもしれないが、いただいたご意見を参考に開催したいと考えている。

●事務局

デジタルに関する国の動向について、国では、平成26年度から地方を活性化させるため、「地方創生総合戦略」を策定しており、江別市においても、江別版の総合戦略をつくり、現在、各取組を進めているところであるが、国では、令和5年12月に、デジタルを活用した地方創生を進めるため、これまでの「地方創生総合戦略」から「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に内容を改めようという動きがある。

当市においても、国の動きに合わせて、当委員会も含めた関係会議の再編成を検討しているところである。

委員の皆様の任期は、令和6年7月までであるが、それ以降の体制については、次回の委員会で報告させていただきたい。

なお、次回の委員会は5月の開催を予定している。

#### 4. 閉会